

見つけた

令和3年度
立山町立釜ヶ淵小学校
第1学年 学年だより
12月号

豊かに彩られた世界に・・・

学校生活の時間の中で、子供たちがとても楽しみにしているのが、大休憩と昼休憩。ちょっとした短い時間なのですが、みんな勢いよく教室をとび出していきます。秋の初めは、トンボやバッタをつかまえようと、スキー山に直行していた子供たちでしたが、天気が悪いせいか、近頃は図書室に向かっていきます。11月終わりには、図書委員会の図書祭りの催しがあり、ビンゴで景品がもらえるとあって、さらに勢いづいていました。そんな時、いつも教室はもぬけの殻で、しんと静まり返ってしまいます。

廊下に出て、子供たちを見ると、「行きは勢いよく元気に、帰りは胸を張って堂々と」といった具合に、行きと帰りの様子が全く違います。さらに、帰りは、とても自慢げというか、誇らしげな表情で歩いてきます。

「181冊になった。もうすぐ200冊」

「175冊いきました」

「122冊になったよ」

「読書は楽しい。おもしろいことが、書いてあるから」

と、廊下中に響く声で、駆け寄ってきます。180冊近く本を読んだ子供たちの話を聞いて、読書数を意識しながら読んでいるのでしょう。

1学期は、100冊を目指して読んでいた子供たちですが、今は、200冊を目当てに読んでいます。そんな子供たちの姿を見ていていいなと思うのは、読書を楽しみながら自分の目当てとする冊数を決めているところです。読書の時間が始まると、借りてきた本をさっと机の上に出し、読み始めます。そして、時間が終わる頃には、没頭して読んでいます。

このように、子供たちのすてきさは、夢中になって読書を楽しんでいるところです。物語や図鑑等を読みながら、想像力の翼を広げ、本の世界に入り込んでいます。「自分の心⇄本の世界」の往復切符を手に入れ、やさしさや勇気、誠実さ等といった生きるための心の柱をいつの間にか楽しみながら、徐々に学んでいます。



やがて、このような読書体験を続けることで、子供たちは行き先の対象を変え、「自分の心⇄相手の心」という往復切符に変え、素直な心で相手を思いやったり、相手を受け入れたりするようになるでしょう。そうなったとき、子供たちの人生は、今以上に豊かに彩られた世界になることでしょう。

今後、ご家庭での読書習慣が子供たちに付いていきますよう、親子で本に親しまれる時間をもたれてはいかがでしょうか。

地域の方に、感謝のお手紙



先日、交通指導員の大畑さんが、交通安全に貢献されたということで、表彰されました。いつも学校前の信号機のある交差点に立ってもらっているおかげで、子供たちは安全に横断歩道を渡ることができます。その後、大好きな野菜を農園に見に行く時も、自動車が来ないか、気を付けて見てもらっています。また、気軽に声をかけてもらい、笑顔で接してもらっています。

そこで、子供たちから、感謝のお手紙を読んで渡すことになりました。全員でお手紙を書き、代表としてKさんに読んでもらうことになりました。書いた手紙は、Sさんに渡してもらいました。Sさんのお手紙です。

「はい、いいよ」

いつも、学校まえで、やさいを見にいくときの大はたさんのこえです。そのこえをきくと、あんしんしてみちをわたることができます。

はるのこうつうあんぜんきょうしつでは、みちのあんぜんなわたりかたをおしえてもらいました。そのおかげで、わたしはげんきです。やさいたちも、げんきです。

大はたさんのやさしさで、これからわたしたちを見まもってください。おねがいします。

大畑さんに見守られている様子が、目に浮かんでくるようなお手紙でした。大畑さんの「おかげ」で、自分だけでなく、自分とつながっている野菜も元気になったというSさんの感謝の気持ちも伝わってきました。きっと1年生の気持ちが、大畑さんに届いたことでしょう。

給食が終わった後、何と1年生が帰られる大畑さんに、「おめでとうございます」と駆け寄ってお礼を言ったそうです。大畑さんは、子供たちのサプライズに対し、とてもうれしそうな顔をしておられたそうです。何とも言えない、すてきな光景だったそうです。

今、算数では…

11月で2学期の学習も終わりました。「かたちあそび」の学習では、身の回りの箱や空き缶等を使って、タワーを作ったり、転がして遊んだりしました。体感を通して、立体図形のもつ形の特徴に気付いていきました。

これからは、百マス計算に取り組んでいきます。3分以内でできるように、取り組みます。次に、出来たら、1分30秒を目指します。

暗唱してすらすらになることで、4年生の難関である割り算に備えます。プリントをもってこられましたら、タイムを計ってあげてください。お願いします。

